

## 6 . 計画の推進

計画の進行管理の仕組みを示します。

## 6 . 計画の推進

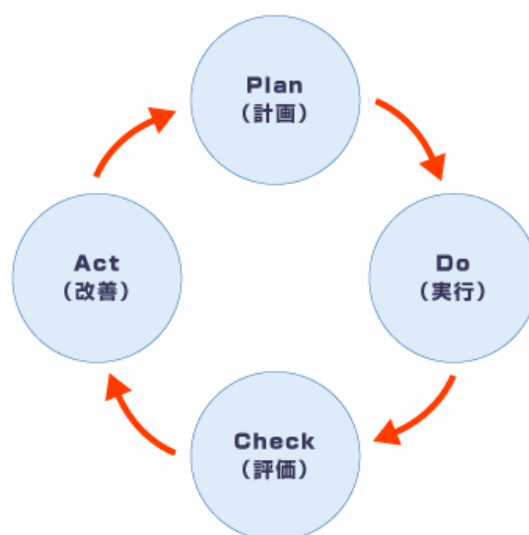
### 6 - 1 計画の進捗の把握・評価

計画の進捗状況を踏まえ、適切な見直しが行われている状態、また計画の進捗状況による効果が把握され、誰もが知ることができる状態を目指し、計画の進捗の把握、評価、見直しを行います。

#### 1 PDCAサイクルによる進行管理

計画の進捗状況については、食育の主体の取組状況を把握・評価していきます。

また、本計画を「計画Plan」とし、毎年、「実行Do」「評価Check」「改善Action」を繰り返す、PDCAサイクルによる進行管理で取組状況を点検・評価し、次年度の改善や見直しに活用します。



#### 2 指標設定と評価結果の公表

計画の進捗状況は、客観的な指標である「食育推進の指標と目標値」により把握し、評価を行います。

「食育推進の指標と目標値」を設定することで、計画により何を実現したいかが明確になります。また、取組の達成状況を把握することで、より力を入れるべき取組が明確になり、効果を高めることができます。

なお、計画の進捗状況と評価結果については、ホームページ等で公表します。

#### 3 計画の「効果」に基づく見直し

本計画は計画期間を5年としており、平成25年度に見直しを行います。見直しにあたっては、「食育推進の指標と目標値」に基づき行うことで、計画によって得られた効果と生じている課題を明確にし、見直しの精度を高めます。

## 6-2 食育推進の指標と目標値

「食育推進の指標と目標値」は、施策や重点事業を代表し、その効果を映すことを考慮するとともに、計画の進捗の把握・評価につながることを重視して設定しています。

### 食育推進の指標と目標値

( 1 / 3 )

基本目標	食育推進の指標	平成19年度 現状値	平成25年度 目標	設定の理由	指標の解説、出典	
1 食の自立と健康的な生活を実践する取組の充実	離乳食講習会への参加者数	参加者数 364人	▲	●子どもの順調な発育のための情報提供により望ましい食習慣形成を支援します。	●参加者数：子ども家庭支援センターが行う離乳食講習会への延べ参加者数。	
	朝食をほぼ毎日食べる人の割合	小学生	98.3%	▲	●規則的な食習慣は、健康づくりに欠かすことのできない取組です。	●小学生：平成19年度アンケートより。保護者が子どもについて回答。なお「ほぼ毎日」は「週4、5日以上」を指す。 ●20歳以上：健康づくり推進プラン（平成14年3月）より。平成22または23年度同じ調査項目で調査の予定。
		20歳以上	87.4%	▲		
	栄養のバランスやエネルギーを考えて食事をしている人の割合	小学生以上の男性	52.9%	▲	●野菜摂取は栄養バランス向上、満腹感による肥満防止にもつながります。	●小学生以上の男性、小学生以上の女性：健康づくり推進プラン（平成14年3月）より。平成22または23年度同じ調査項目で調査の予定。
		小学生以上の女性	70.7%	▲		
	西東京市国民健康保険における特定健康診査の受診率	受診率	39.1%	▲	●生活習慣病は、自覚症状がないまま進行するため、特定健康診査は個人が生活習慣を振り返る有効な機会であり、特定保健指導により生活習慣の見直しにつながります。	●受診率：40～74歳の西東京市国民健康保険加入者の受診率（ただし現状値は老人保健法で実施していた基本健康診査の受診率で、参考値である）。
	西東京市国民健康保険における特定保健指導の実施率	実施率		▲		●実施率：40～74歳の西東京市国民健康保険加入者で、当該年度に特定保健指導の対象とされた人に対する特定保健指導の実施率（平成20年度からの事業であるため、現状値は平成20年4月以降に把握する）。
安全な食べ物に関する知識を増やしたい人の割合	小学生の保護者	98.3%	▲	●消費者である市民が正確な情報を理解・選択できるよう啓発・支援が必要です。	●小学生の保護者：平成19年度アンケートより。	

- ・ は、国の食育基本計画の目標に準じた目標です。
- ・ は、平成19年度以外のデータです。
- ・ 「平成19年度アンケート」は、「西東京市「食育に関するアンケート」調査結果報告書」（西東京市、平成20年4月）を指します。
- ・ 「都の現状値」とは、「食生活と食育に関する世論調査」（東京都、平成19年8月）の数値です。
- ・ 「都の指標」とは、「東京都食育推進計画」（東京都、平成18年9月）の指標です。

食育推進の指標と目標値

( 2 / 3 )

基本目標	食育推進の指標	平成19年度 現状値	平成25年度 目標	設定の理由	指標の解説、出典	
2 農 の 理 解 を 通 じ た 食 を 大 切 に す る 心 の 育 成	学校農園設置校数	小学校 11校	▲	●体験を通して食べ物や命の大切さ、感謝の気持ちを学ぶ大切な場です。	●小学校：全19校中学校農園11校	
	食育をテーマとする東大農場連携事業への参加校数(累積)	参加校数(累積) 1校	▲	●体験を通して食べ物や命の大切さ、感謝の気持ちを学ぶ大切な場です。	●参加校数(累積)：食育をテーマとする東大農場連携事業への参加校の累積数。	
	地元の農産物を食べたい・購入したい人の割合	小学生の保護者	87.9%	▲	●地場産農産物は、旬の新鮮なものが多く栄養的に優れています。	●小学生の保護者：平成19年度アンケートより地元の農産物を「多少割高でも」あるいは「同程度の価格であれば」購入したい割合。 ●16歳以上の市民：平成14年度農業振興計画策定委員会調査報告書より市内で生産された農産物を「ぜひ」「できれば」食べたい割合。
		16歳以上の市民	83%	▲		
	「食育・地産地消推進店」認定件数	認定件数		▲	●推進店の取組を通じて、市民の身近なところで食育を周知できます。	●今後、認定制度立ち上げ・把握
	食材を無駄なく使いきるようにしている人の割合	18歳以上の市民	56.9%	▲	●もったいないという気持ちで、食べ物などを大切にすることが重要です。	●18歳以上の市民：西東京市環境基本計画策定に係る環境アンケート調査結果報告書(平成15年3月)より、食材を無駄なく使いきることを「いつも行っている」人の割合。

- ・ は、国の食育基本計画の目標に準じた目標です。
- ・ は、平成19年度以外のデータです。
- ・ 「平成19年度アンケート」は、「西東京市「食育に関するアンケート」調査結果報告書」(西東京市、平成20年4月)を指します。
- ・ 「都の現状値」とは、「食生活と食育に関する世論調査」(東京都、平成19年8月)の数値です。
- ・ 「都の指標」とは、「東京都食育推進計画」(東京都、平成18年9月)の指標です。

食育推進の指標と目標値

( 3 / 3 )

基本目標	食育推進の指標	平成19年度 現状値	平成25年度 目標	設定の理由	指標の解説、出典	
3 人と人とのつながりによる広がりある食育の推進	食育の推進に関わるボランティア数	ボランティア数 125人	▲	●地域における食育活動を進めるために必要な人材です。	●西東京市地域活動栄養士会：6人 ●保谷縁農サークル：67人 ●保谷楽農塾：39人 ●西東京食育チーム：13人 (いずれも平成20年6月末現在)	
	家族と一緒に夕食をほぼ毎日食べる人の割合	小学生の保護者 93.8%	▲	●家族団らんの食事は、マナー習得に加え、食を楽しむ心も育みます。	●小学生の保護者：平成19年度アンケートより。なお「ほぼ毎日」とは「週4、5日以上」を指す。	
	緑黄色野菜を1日1回以上食べている人の割合	子	91.3%	▲	●野菜摂取は栄養バランス向上、満腹感による肥満防止にもつながります。	●子、成人：健康づくり推進プラン（平成14年3月）より。「子」については、未就学児のいる保護者が調査対象。平成22または23年度同じ調査項目で調査の予定。
		成人	70.4%	▲		
	その他の野菜、海藻、きのこ類を1日1回以上食べている人の割合	子	85.0%	▲	●食育推進には「食育」という言葉の意味の理解が必要です。	●子、成人：健康づくり推進プラン（平成14年3月）より。「子」については、未就学児のいる保護者が調査対象。平成22または23年度同じ調査項目で調査の予定。
成人		64.7%	▲			
「食育」の意味を知っている人の割合	小学生の保護者 73.3%	▲	●食育推進には「食育」という言葉の意味の理解が必要です。	●小学生の保護者：平成19年度アンケートより。		

- ・ は、国の食育基本計画の目標に準じた目標です。
- ・ は、平成19年度以外のデータです。
- ・ 「平成19年度アンケート」は、「西東京市「食育に関するアンケート」調査結果報告書」（西東京市、平成20年4月）を指します。
- ・ 「都の現状値」とは、「食生活と食育に関する世論調査」（東京都、平成19年8月）の数値です。
- ・ 「都の指標」とは、「東京都食育推進計画」（東京都、平成18年9月）の指標です。

## コラム ちょっと一息 「北多摩の食 小麦文化の継承」

食文化を知ることは、その土地の風土を知ることであり、生活・健康の知恵を学ぶことでもあります。北多摩地区では伝統的に小麦を使った郷土料理（うどん等）があり、現在、市内でも、食の継承に向けた小麦づくり等の取組が行われています。

### 北多摩地区の小麦文化

西東京市のある北多摩地区は、伝統的に小麦文化の地域に属しています。「田無」という地名も、水が少なく水田で稲を育てることは難しかった地域の特性を反映しています。そのため、小麦が栽培されてきました。



#### 「うどん」と「ゆでまんじゅう」

栽培した小麦は、うどんに打ったりまんじゅうにして食べてきました。

郷土料理として伝わる「うどん」は、ゆでうどんを水でしめてざるに盛り、季節の茹で野菜を添えて食卓に並べ、温かい付け汁で食べるものです。結婚式など多くの人が集まるお祝いごとの際に、ごちそうの最後の締めくくりとしてうどんが食べられることも多かったそうです。

他にも、ゆでまんじゅう（練った小麦粉の生地で餡を包み、ゆでたもの）が手軽なおやつとして伝わります。

#### 「めぐみちゃん小麦」

現在、市内には小麦を販売目的で栽培している農家はない状況です。農家有志とJA東京みらい、市が連携して、遊休農地対策、景観対策、食文化の継承も目指し、小麦づくり事業を実施し、「めぐみちゃん小麦」として販売しています。

うどん



ゆでまんじゅう



めぐみちゃん小麦

